

授業科目名	和文：法律を考えるA—法学— 英文：Jurisprudence A : Outline of Civil Law				時間割	金 3-4
科目コード	501-0013	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等 1期
受講対象学生	全					
授業の形式	講義	備考				
履修する際に前提とする授業科目名						
内容的に密接に関係する授業科目名	日本国憲法 B・C 民法 I					
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号				
西台 満	政策科学	3-328、889-2659				
オフィスアワー 曜日及び時間：火、 4：10～5：40 場所：西台研究室（3-328）						
授業の目的及び到達目標 1. 目的 先ず一般教育（General Education = 本学では教養基礎と呼んでいる）の目的としては、生まれてから現在まで、親や学校の教師、本・新聞・テレビなどから沢山の知識・考えを受け取り、頭に keep しているわけだが、大学に入ったのをいいきっかけにして、それらを一旦全部 clear する。それから、自分が正しいと納得できるものだけを一つずつ、もう一回頭に収納してゆく。この作業を「自我の確立」と言う。 2. 到達目標 自我を確立するためには、これまで「当然」「当たり前」と思って全然疑わなかったことでも、改めて「本当だろうか？」と疑うこと、即ち批判力が必要になってくる。本講では主に民法を題材として、多くの人が正しいと思っていることについて、「実はそうではないんだ」という例を示す。						
カリキュラム上の位置付け 最も「一般教育らしい」科目である。これを受けた人と受けない人とは、専門に入ってから大きな差が出てくると思われる。						
授業の概要と進行予定及び進め方 1 高校までの「勉強」と、大学でする「学問」との違い 2 時代の流れ—工業化社会から情報化時代へ— 3 法的安定性と具体的妥当性 4 物権と債権 5 物権の排他性と公示制度 6 動産の公示—占有— 7 不動産の公示—登記— 8 債務不履行と不法行為 9 挙証責任 10 公害訴訟 11 証明と疎明 12 消費者金融						
授業に関連するキーワード	債務不履行	不法行為	登記			
公害	挙証責任	超過利息	証明			
成績評価の方法及び可否判定基準 7月中旬の一回の試験で。 但し、出席の良し悪しを成績に加味するため、出席を取る。						
教科書・参考書等 教科書として、 西台満著『理論民法』高文堂出版社（2000円）						

授業科目名	和文：日本国憲法 B－自分の憲法観が持てるように－ 英文： The Constitution of Japan B				時間割	木 5-6	
科目コード	501-0042	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1期
受講対象学生	全学部 1～3年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名	法律を考える A・B						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
西台 満	政策科学	3-328、889-2659					
オフィスアワー 曜日及び時間：火、 4：10～5：40							
場所：西台研究室（3-328）							
授業の目的及び到達目標 1. 目的 自分自身の憲法観を構築してもらうこと。学校で教科書を読んだり教師から聞いたり、テレビや新聞から得た知識は、どこまでも他人のものであって君のものではない。ひょっとしたら騙されているのかも知れない。そういうわけで、これまで皆さんの頭の中に詰め込まれてきた知識を一旦フォーマット（初期化＝パソコン用語で、新しいデータを書き込めるように、古いデータを全部消去すること）するような講義をするので、後は自分が正しいと思う考えを一つ一つ選択し、積み上げて行って欲しい。 2. 到達目標 （1）憲法学界の多数説が中学・高校の教科書に取り入れられ、それが皆の頭に刷り込まれ、国民の常識のようになっている。そういう憲法観のどこがおかしいのか？ 主要な問題を取り上げて、批判する。 （2）たとえ常識みたいに思われていることであっても、自分が納得できないなら納得できるまでとことん考える、という思考力・批判力を鍛える。							
カリキュラム上の位置付け マスコミや他人の考えに流されたりせず自分の考えで行動できる人、あるいは理科系なら発明・発見ができるような人、そういう人には批判的思考力が絶対に必要である。本講は、憲法を題材にして、そういう能力を引き出そうとする。							
授業の概要と進行予定及び進め方 1. 憲法の名宛人 2. 基本的人権と「法律の留保」 3. 天皇制の意義と、国事行為に関する解釈 4. 自由と平等の関係 5. 「法の下での平等」の意義と法律制定の目的 6. 選挙と「法の下での平等」 7. 政教分離のあり方 8. 三権分立 9. 衆議院の解散 10. 地方自治を殺す憲法解釈							
授業に関連するキーワード	民主主義	法律の留保	地方自治				
衆議院の解散	法治主義	官僚主権	一票の重み				
成績評価の方法及び合否判定基準 7月下旬の一回の試験で評価する。 但し、出席の良し悪しを成績に加味するために、毎回出席を取る。							
教科書・参考書等 教科書として、 西台満著『日本国憲法原論』高文堂出版社（2667円）							

授業科目名	和文：日本国憲法D－自分の憲法観が持てるように－ 英文：The Constitution of Japan				時間割	火 3-4	
科目コード	501-0044	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1期
受講対象学生	全学部1～4年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名	特になし						
内容的に密接に関係する授業科目名	くらしと法－教養法学－，教養ゼミナールⅡ－人権の現代的諸相－						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
池村 好道	教育文化・地域科学	教文3－330・2661					
オフィスアワー 曜日及び時間：月曜日 18:00～19:00 場所：教文3－330							
授業の目的及び到達目標 1. 目的 統治機構を中心とした日本国憲法の基礎的理解 2. 到達目標 1) 憲法上の基本的な諸概念を説明できる。 2) 日本国憲法の基本構造を説明できる。 3) 各種の憲法問題の基礎を的確に把握できる。							
カリキュラム上の位置付け 本学の教育目標である「社会の変化に柔軟に適應できる幅広い教養」の涵養のための授業科目の一つ。 本授業科目は統治機構に主眼がおかれており、「人権の現代的諸相」の履修と合わせて、憲法の一層の理解が可能となる。 目的・主題別としては、「学問の体系」を重視する。							
授業の概要と進行予定及び進め方 ・憲法の理念と現実という問題を意識しながら、比較憲法的視点を加味して、統治機構を中心に日本国憲法の入門的解説を行う。 進行予定は以下の通り。 1～2回. 国民主権と天皇制：天皇の地位，天皇の行為 3～4回. 平和主義：9条の解釈 5～6回. 国会：両院制，参議院の存在理由など 7～8回. 内閣：議院内閣制など 9～10回. 裁判所：司法権の概念と帰属など 11回. 地方自治：「地方自治の本旨」など 12～14回. 基本権：種類，享有主体など 15回. 試験実施 ・講義のなかで、憲法の条文をはじめ「六法」をしばしば参照する。 ・教育文化学部学校教育課程以外の学生については、受講者の人数制限を行うことがある。							
授業に関連するキーワード	憲法	統治機構	象徴				
戦争の放棄	衆議院の解散	司法権の独立	外国人の人権				
成績評価の方法及び合否判定基準 1) 中間レポート(30点)・・・到達目標1，2 2) 期末試験(70点)・・・ " 1，2，3							
教科書・参考書等 教科書は使用しない。プリントを配付する。参考文献は適宜示す。 最も小型のものでよいため、事前に「六法」を用意しておくこと。							

授業科目名	和文：くらしと法—教養法学— 英文：Fundamentals of Law				時間割	金 7-8	
科目コード	501-0071	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1期
受講対象学生	全学部1～4年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名	特になし						
内容的に密接に関係する授業科目名	日本国憲法A、D、教養ゼミナールII-人権の現代的諸相-						
担当教員名	所属		学内室番号・電話番号				
池村 好道	教育文化・地域科学		教文3-330・2661				
オフィスアワー 曜日及び時間：月曜日 18:00～19:00 場所：教文3-330							
授業の目的及び到達目標 1. 目的 現代法及びリーガル・マインドの基礎的理解 2. 到達目標 1) 現代法の基底にある法原理を説明できる。 2) 基礎的法概念を説明できる。 3) 新聞等により報道される法的事象につき、問題の所在を的確に把握できる。							
カリキュラム上の位置付け 本学の教育目標である「社会の変化に柔軟に適應できる幅広い教養」の涵養のための授業科目の一つ。 法的素養を修得するための授業科目であると同時に、法を専門的に学ぶうえでの出発点としての科目でもある。 目的・主題別としては、「学問の体系」を重視。							
授業の概要と進行予定及び進め方 ・具体的事例、裁判例を織り交ぜながら社会（行為）規範としての法を見る目を養ったうえで、現代法を支配している諸原理を明らかにする。 進行予定は以下の通り。 1～3回. 法と道徳の関係をめぐる諸説の検討 4～6回. 法的制裁 (1) 刑事上の制裁 (2) 民事上の制裁 (3) 行政上の制裁 7～9回. 法の実在形式 (1) 制定法（種類、諸原理、違憲立法審査） (2) 非制定法（種類、役割） 10～11回. 法の適用 (1) 裁判過程 (2) 裁判上の諸原理 12～14回. 現代法の諸原理 (1) 法治主義 (2) 過失責任主義とその修正 15回. 試験実施 ・講義のなかでしばしば「六法」を参照する。							
授業に関連するキーワード	刑罰	損害賠償	強制執行				
正義	法的安定性	立証責任	法律による行政の原理				
成績評価の方法及び合格判定基準 1) 中間レポート（30点）・・・到達目標1, 2 2) 期末試験（70点）・・・ " 1, 2, 3							
教科書・参考書等 教科書は使用しない。参考文献は適宜示す。 最も小型のものでよいため、事前に「六法」を用意しておくこと。							

授業科目名	和文：国際社会を考える－国際人の基礎知識－ 英文：A Grounding in the International Business				時間割	火 5-6	
科目コード	501-0085	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1期
受講対象学生	全学部 1～2年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
西台 満	政策科学	3-328、889-2659					
オフィスアワー 曜日及び時間： 火、4：10～5：40 場所： 西台研究室（3-328）							
授業の目的及び到達目標 1. 目的 国際化・グローバル化が進み、外国に出かけること及び日本国内における外国人との接触がこれからはますます増えると思われる。そういう状況に直面して、我々が条件反射的に考えることと言えば、外国語特に「英会話」の習得であろう。しかし、それは「容器」であって「中味」ではない。話す内容も無いのに、言葉を覚えて何になるのか？ なので、今のままではいくら英会話にお金を注ぎ込もうと、無駄金に終わるのが落ちである。本講は、英語でしゃべるための基礎工事を意図している。 2. 到達目標 先ず日本人であること及び日本の伝統・文化に誇りを持ち、その上で、外国にいいものがあればそれを学び吸収しようという姿勢の構築。							
カリキュラム上の位置付け							
授業の概要と進行予定及び進め方 I 宗教編 (1) 神道 (2) 仏教 (3) キリスト教 (4) イスラム教 II ビジネス編 (1) 企業法務 (2) 国際取引法 (3) 国際経済							
授業に関連するキーワード	聖書	神社	輪廻				
有価証券	直接投資	外国為替	約束手形				
成績評価の方法及び合否判定基準 七月下旬に行う試験の点数が基本となるが、それに小テストと積極性（出席・発言回数及び内容）を加味する。							
教科書・参考書等 教科書は無し。 適宜、コピーを配る予定。							

授業科目名	和文：現代社会と経済ⅠA－近代経済学入門－ 英文：Modern World and Economy ⅠA:Introduction to Economics				時間割	木 3-4	
科目コード	501-0103	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1期
受講対象学生	全学部						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名	特になし						
内容的に密接に関係する授業科目名	特になし						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
島澤諭	教育文化学部	教文 3-326・2657					
オフィスアワー		曜日及び時間：木曜 12:00-13:00		場所：教文 3-326			
授業の目的及び到達目標 1. 目的 日常の経済現象の背後にあるメカニズムを理解する。 2. 到達目標 経済学の基礎を身に付ける。 経済学を現実経済に応用できる。 経済現象を説明できる。							
カリキュラム上の位置付け 経済学としての方法論についての講義を通じて、経済学的なものの見方を修得する。							
授業の概要と進行予定及び進め方 この授業では、わが国では歴史的経緯から「近代経済学」と呼ばれているグローバルスタンダードな経済学を使ってさまざまな日常問題(経済・社会・政治)を分析することで、高度に抽象化されている経済理論の概要を紹介します。							
授業に関連するキーワード	ミクロ経済学	マクロ経済学					
成績評価の方法及び合否判定基準 期末に実施する試験により行う。追試験・再試験は実施しない。							
教科書・参考書等 教科書は使用しない。							

授業科目名	和文：現代社会と経済Ⅱ A－現代社会と経済学－ 英文：Modern World and Economy IIA:Contemporary Society and Economics				時間割	金 3-4	
科目コード	501-0113	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1期
受講対象学生	全学部1～3年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属		学内室番号・電話番号				
小林 正雄	教育文化学部		教文 3-327・2658				
オフィスアワー 曜日及び時間： 金 16:30～17:30			場所： 教文 3-327（電話：889-2658）				
授業の目的及び到達目標 1. 目的 経済学（社会科学）の見方・考え方を知り，現代社会をトータルに見る眼を養う。 2. 到達目標 やがて進んでいくそれぞれの専門分野（教育，経済・法などの社会領域，医療，技術等）について，どのような角度から見ればいいのかを身につける。							
カリキュラム上の位置付け 社会・歴史を科学的に考察するための科目の一つであるが，とくに地域科学課程の学生は，専門教育（日本経済論など）の基礎として履修しておくことが望ましい。（「現代社会と経済学」は，同一授業内容ゆえ，A・Bのいずれかを選択し履修すること。）							
授業の概要と進行予定及び進め方 1～2. 経済学の面白さ－“発展段階論”とその意義－ 3～4. “三段階論”（原理論・発展段階論・現実分析）考 5～8. 純粋資本主義と原理論 (1) 純粋資本主義とはなにか (2) 純粋資本主義と原理論（景気循環論） 9～13. “発展段階論”の論理 (1) 資本主義の発展段階と構成要素 (2) 「20世紀システム」考 (3) 「21世紀システム」考 14～15. 現実分析：日本経済－20世紀から21世紀へ－							
授業に関連するキーワード	三段階論	原理論	発展段階論				
現実分析							
成績評価の方法及び合格判定基準 試験あるいはレポートを中心に，出欠状況を加味して，総合的に評価する。							
教科書・参考書等 使用の予定							

授業科目名	和文：日本と諸外国の政治 I A－現代日本政治－ 英文：Politics in Japan and Foreign Countries IA:Modern Japanese Politics				時間割	火 3-4	
科目コード	501-0153	必修・選択	選択	単位・時間数	2・	開設学期等	1期
受講対象学生	全学部 1～3 年次						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属		学内室番号・電話番号				
中村 裕	教育文化学部		教文 3-332,2604				
オフィスアワー 曜日及び時間： 火 16:00-17:00			場所： 教文 3-332				
授業の目的及び到達目標 1. 目的 戦後日本の展開、特質を歴代内閣の仕事とその時代背景を検討しつつ、理解する。 2. 到達目標 1. 具体的な戦後日本の政治家、政党、内閣の事業を検討することを通して、政治、政治的 発想について考える姿勢、問題意識を身につける。 2. 民主主義、国民的合意、民意の反映に関して、戦後日本政治の考察を通して検討する。 3. 自由主義、保守主義、社会民主主義等政治理念・潮流についての基礎を理解する。 4. 新聞や総合雑誌の論調を読み取るための基礎力をつける。							
カリキュラム上の位置付け 社会科学入門							
授業の概要と進行予定及び進め方 1. 戦後改革と五十五年体制の成立 2. 戦後日本の保守と革新 3. 60 年安保闘争の意味 4. 高度経済成長と自由民主党の政治スタイル 5. 経済大国の諸相 6. 田中内閣と戦後民主主義 7. 低成長時代の政治思潮 8. 中曽根内閣の「戦後政治の総決算」 9. 冷戦後の日本政治が直面した諸問題 10. 自民党一党優位体制の崩壊 11. 政界再編 12. 行財政改革を取り巻く状況 13. 新自由主義とそれに対抗する動き 14. 戦後日本政治の構造 15. 試験							
授業に関連するキーワード	五十五年体制	保守と革新	護憲と				
経済優先	戦後ナショナリズム	日本型福祉	政治改革				
成績評価の方法及び合格判定基準 最後の試験を重視するが（80 %）、数回のアンケート＋小テストの結果も考慮する。 暗記物ではない。事実を理解し、それに対する自分なりの考察ができていのかどうかを重視する。							
教科書・参考書等 参考書 御厨貴編『歴代首相物語』新書館、石川真澄『戦後政治史』岩波新書							

授業科目名	和文：社会と家族 A—家族社会学の基礎— 英文：Society and Family A:the Basis of Family Sociology				時間割	水 3-4	
科目コード	501-0190	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1期
受講対象学生	全学部1～3年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属		学内室番号・電話番号				
石 沢 真 貴	政策科学		教文 3-331・2616				
オフィスアワー 曜日及び時間：火, 水, 木 場所：教文 3-331							
授業の目的及び到達目標 1. 目的 家族に関する諸問題を、家族とは何かを問いつつ考察することで、現代社会への関心を高める。 2. 到達目標 家族に関する基礎知識を身につける。 社会集団としての家族の構造や機能を理解する。 家族をとりまく社会変化を理解する。 家族に関する社会制度を理解する。							
カリキュラム上の位置付け 社会科学的な視角、考察力を養うための基礎的な科目 社会学、特に家族社会学的内容							
授業の概要と進行予定及び進め方 授業の概要 家族に関わる現代的諸問題について、家族とは何かを問いつつ考察する。 進行予定及び進め方 1 ガイダンス 2 家族の定義 3 家族に関する基礎的概念 4 家族と法 5 法に関する近年の動向 6 近代社会と近代家族 7 世帯構造の変化でみる現代家族 8 世帯構造変化の要因 9 家族機能の変化と家族問題 10 社会制度としての結婚 11 結婚に関する近年の動向 12 離婚・再婚に関する近年の動向 13 夫婦関係と性別役割分業 14 ライフステージからみた家族関係 15 現代家族のゆくえ							
授業に関連するキーワード	家族	近代	社会学				
成績評価の方法及び合否判定基準 ・授業の最後にレポートもしくは記述試験により成績を評価し、原則として再試験や追試験は行わない。 ・授業内のレポート等提出物を評価の際に考慮する場合もある。 ・総合的な評価の結果が60点未満の場合は不合格Dとする。							
教科書・参考書等 ・教科書は使用しない。 ・必要に応じて参考文献を紹介したり、プリント資料を配布したりする。							

授業科目名	和文：現代社会と子どもの福祉 英文：Modern Society and Child Welfare				時間割	水 3-4	
科目コード	501-0260	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1期
受講対象学生	全学部 1～2 年生						
授業の形式	講義・学生参加型	備考					
履修する際に前提とする授業科目名	(特になし)						
内容的に密接に関係する授業科目名	(特になし)						
担当教員名	所属		学内室番号・電話番号				
小林 英義	教育文化・発達科学		教 5-307・2518				
オフィスアワー 曜日及び時間：水曜 5・6限							
場所：教 5-307							
授業の目的及び到達目標 1. 目的 わが国の子ども福祉に係る法制度、並びにそれに対応する援助内容について、講義や学生同士の意見交換を通じて考察し、理解する。 2. 到達目標 1) 子ども福祉に係る法制度、並びにそれに対応する援助内容を説明できる 2) 子ども福祉の行政上の窓口である児童相談所業務の現状と課題を分析する 3) 触法少年（14 歳未満）の処遇について、ほかの受講生と意見交換し、司法と福祉の連携に関する自分の考えをまとめる 4) 社会的養護のいくつかの形態を理解する 5) 子育て支援策に関する考えを提出することができる							
カリキュラム上の位置付け							
授業の概要と進行予定及び進め方 概要 子どもの福祉に関わる法体系の枠組みをまず理解し、そのうえで各種の機関や施設で行われている援助内容の実際を理解する。 進行予定及び進め方 各回の授業は、教員による講義と学生同士の意見交換を中心に進める。取り上げるテーマは次の通りである。 1. 授業ガイダンス 2. 子ども福祉の法体系 3. 児童相談所における相談援助活動（1） 4. 同上（2） 5. 社会的養護の形態（乳児院） 6. 同上（児童養護施設） 7. 同上（児童自立支援施設） 8. 同上（里親制度） 9. 施設で生活する子どもの営み（1） 10. 同上（2） 11. 同上（3） 12. 同上（4） 13. 同上（5） 14. 司法と福祉の連携 15. 記述試験							
授業に関連するキーワード	児童福祉法	少年法	児童虐待防止法				
少年非行	少年事件	児童虐待	施設養護				
成績評価の方法及び合否判定基準 成績評価は 100 点満点とし、次の二つに配点する。 1) 記述試験（70 点）…授業で学んだことを確認する（到達目標 1、2、4） 2) リフレクション・ノート（30 点）…各回の授業終了時に記入し提出する（到達目標 3、5）							
教科書・参考書等 教科書：小林英義著『寮通信「子どもの目」一少年・少女たちの生活記録。教護院から児童自立支援施設』、三学出版、2008 年（事前に生協等で購入） 参考書：藤原正範著『少年事件に取り組む』岩波新書、2006 年 川崎二三彦著『児童虐待』岩波新書、2006 年（関心のある人は読む）							

授業科目名	和文：大学生活と学習 I Aーキャリア形成入門ー 英文： Campus Life and Learning IA:an introduction to career formation					時間割	月 9-10
科目コード	501-0313	必修・選択	選択	単位・時間数	2・	開設学期等	1期
受講対象学生	全学部 1～3 年次						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属		学内室番号・電話番号				
中村 裕	教育文化学部		教文 3-332,2604				
オフィスアワー 曜日及び時間： 火 16:00-17:00							場所： 教文 3-332
授業の目的及び到達目標 1. 目的 明確な目的意識をもって主体的に自らのキャリアについて考える姿勢を確立する。就職活動を有利に進めるための how to ものと考えて受講すると失望する。 2. 到達目標 1. 仕事をするというこの意味を考える態度を身につける。 2. 将来自分が仕事をする世界を取り巻く環境について正確に理解する。 3. 自分の希望を達成するために何をしなくてはならないのか等に関して自己分析を行う力 をつける。							
カリキュラム上の位置付け 文字通りキャリア形成入門							
授業の概要と進行予定及び進め方 1. ガイダンスー大学での経験がキャリア形成にとって持つ意味 2. 今年度の就職をめぐる状況ー『労働経済白書』を読む 3. 労働の意味を考えるーロナルド・ドーア『働くということ グローバル化と労働の新しい意味』(中公新書)を手がかりに 4. 講演「秋田大学の学生に求められるもの」 5. 日本の労使関係 (1)ー高度経済成長と「会社人間」 6. 日本の労使関係 (2)ー新自由主義のなかでの変容 7. 講演「企業のなかでの能力の生かし方」 8. 講演「新聞はこう読もう」 9. 公務員の世界 (1)ー公共サービスとは何か 10. 公務員の世界 (2)ー地域社会を創るという発想 11. 講演「山王ー公務員の世界から見えてくるもの」 12. 講演「勤労者にとっての法律学」 13. 講演「職業選択の方法」 14. まとめと意見発表ー職業観の再構築 15. レポートー卒業後の進路について							
授業に関連するキーワード	キャリア	職業観	日本的労使関係				
雇用形態の多様化	会社人間	公共サービス	主体的選択				
成績評価の方法及び可否判定基準 授業参加の積極度+レポート							
教科書・参考書等 ロナルド・ドーア『働くということ グローバル化と労働の新しい意味』(中公新書)							

授業科目名	和文：日本論A－「ニホン」か「ニッポン」か－ 英文：Lecture on Japan A:Nihon or Nippon?				時間割	集中	
科目コード	502-0011	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等	1期
受講対象学生	全学部1～3年						
授業の形式	講義	備考	別途掲示により通知				
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
熊田亮介	文化環境	教文3-337・2668					
オフィスアワー 曜日及び時間：木 14:30～17:30				場所：教文3－337（電話：889-2668）			
授業の目的及び到達目標 1. 目的 日本の近現代史を中心として、ともすれば固定的にとらえがちな「日本」をめぐる諸問題について再検討を加え、従来の日本史像を見直す視点を提供する。 2. 到達目標 講義で取り上げる問題について、関係文献を読み、多様な視点から検討を加えて、自分の意見を取りまとめる。							
カリキュラム上の位置付け 							
授業の概要と進行予定及び進め方 1. 国号「日本」の成立はいつか 2～3. 「にほん」か「にっぽん」か 国号の読み方の歴史をたどり、その歴史的課題について考える。 4～5. 祝日の歴史 国定教科書に登場する祝祭日と現在の祝日の歴史をたどり、その歴史的課題について考える。 6～7. 「日本人」とは 日本人の定義について検討し、家族国家論・国民国家論・単一民族国家論について考える。 8. 改めて「日本」を問う							
授業に関連するキーワード	日本						
成績評価の方法及び合格判定基準 各授業時間に行う小レポートと複数回のレポートをもとに評価する。							
教科書・参考書等 教科書は使用せず、授業用資料をその都度配布する。参考書は随時紹介する。							

授業科目名	和文：日本事情Ⅰー異文化コミュニケーション入門ー 英文：Studies on JapanⅠ:Understanding Japanese Culture Through Communication				時間割	月 3-4	
科目コード	502-0030	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1期
受講対象学生	全学部の学生・留学生						
授業の形式	演習・学生参加型	備考	この授業は「行動型」授業である。特にグループ活動が多いので、無断欠席、締切を守らないなどの態度は、グループによる成績評価に影響する。作品作りなどの時間的負担は大きいかもしれないが、それだけの達成感を得られることは保障する。他学部の学生（留学生も含む）と友達になれること語け合います。				
履修する際に前提とする授業科目名	特になし						
内容的に密接に関係する授業科目名	異文化コミュニケーション関連科目						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
宮本 律子	教育文化学部	教3 - 229・2688					
オフィスアワー 曜日及び時間：水 14:30-17:00 場所：宮本研究室（教3 - 229）							
授業の目的及び到達目標 1. 目的 体験を通して異文化コミュニケーションの方法を身につける 2. 到達目標 (1) 色々な文化的背景を持つ学生（異なる出身地、異なる学部、異性など）と真に深い交流を行う (2) 共同で作品を作り上げるということを通して、異なる文化背景を持つ相手とのコミュニケーションの仕方を模索する (3) 自分の思考・行動様式を客観的に見ることができるようになる。 (4) 日本と秋田をより深く知る							
カリキュラム上の位置付け 目的・主題別科目の一科目である。 1年次の学生や新しい留学生にとっては、大学生活のためのオリエンテーション教育となる。2年次以上の学生にとっては、新しい人間関係を発見する場になる。 この授業で得たものは、大学での学び（学問の進展と方法の獲得）の基礎となるはずである。							
授業の概要と進行予定及び進め方 コミュニケーションゲームや討論などを通して、交流を深めつつ、グループに分かれて、興味のあるテーマについて共同で作品を完成させる。留学生1名以上が入った4～5名のグループ活動が中心。 授業の流れは次の通り： (1) 自己紹介ゲーム、学外での花見などを通して交流を深める。 (2) 前年度の授業で実施されたプロジェクトの作品を鑑賞し、作品作りのイメージをもつ。 (3) グループに分かれて、様々なテーマについて討論する（3回～4回グループを変える） (4) グループで、中間発表のテーマを決定→この後はグループごとの活動となる。 (5) 中間発表（Power Point 使用、グループ単位） (6) 期末発表（Power Point 使用、中間発表とは別のグループ） ★第1回目の授業（4月14日）に参加する学生は、自己紹介のための名刺（名前、学部、出身地など簡単に自分を紹介する事柄を書いた名刺大のカード、あまり詳しい個人情報は書かないこと）を一人20枚ずつ用意してきてください。							
授業に関連するキーワード	異文化コミュニケーション	文化の相対性	多文化共生				
自己の関示	共同作業						
成績評価の方法及び合否判定基準 この授業は参加することに大きな意味がある。従って参加度を重視する。参加度とは、単に出席することだけではなく、毎回の授業のグループ活動にどれだけ積極的に貢献したかを見るものである。 中間発表20%、期末発表20%、個人レポート35%、参加度25%							
教科書・参考書等 教科書は使用しない 資料を授業中に配布する							

授業科目名	和文：国際事情－ヨーロッパ文化と現代－ 英文：International Studies:European Culture and Modern Times				時間割	火 3-4	
科目コード	502-0085	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1期
受講対象学生	全学部						
授業の形式	講義	備考	17年度以降入学者				
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
辻野	教育文化・国コミ	3-226・2675					
三宅良美	教育文化・国コミ	3-246・2633					
オフィスアワー 曜日及び時間：水曜日 5:30-7:00 場所：3-246 場所：							
授業の目的及び到達目標 1. 目的 世界で起きている事柄についての固定されがちな価値観に新鮮な揺さぶりをかける 2. 到達目標 グローバリゼーション、 トランスナショナル、 ポストコロニアル といった用語に触れ、具体的な事象について考える。 成績評価の方法及び可否判定基準 出席 レポート（2人のうちいずれかに提出） 教科書・参考書等 コースパック							
カリキュラム上の位置付け							
授業の概要と進行予定及び進め方 授業の概要と進行予定及び進め方 Session 1: Introduction <三宅 Sessions 2-8 ジェンダー、レイシズム、ナショナリズム、および言語がどのように関連しあっているのかを具体的な事象を踏まえながら考える。 1. Nationalism and Sexuality 2. Anti-semitism 3. Racism: a case study of "black body" 4. Cultrual resistance 5. Gender and sexuality and racism 6. Teh problems of children 7. Cultural resistannde <辻野担当分> sessions 9-14 フランス文化、Francophone Session 15: Co-teaching and wrap-up							
授業に関連するキーワード	言語帝国主義	Francophone	racism				
antisemitism							
成績評価の方法及び可否判定基準 レポート（2人のうちいずれかに提出） 教科書・参考書等 コースパック							

授業科目名	和文：社会と地域 A－都市社会学の基礎－ 英文：Society and Community A: Introduction to the Urban Sociology				時間割	火 3-4	
科目コード	502-0120	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1期
受講対象学生	全学部						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名	(特になし)						
内容的に密接に関係する授業科目名	〔「教養基礎教育」では特になし〕						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
和泉 浩	教育文化学部	018-889-2649					
		e-mail: izumi@ed.akita-u.ac.jp					
オフィスアワー	曜日及び時間：火曜昼休みほか研究室在室時			場所：教育文化学部 3号館 322			
授業の目的及び到達目標 1. 目的 現代における地域と社会の諸問題・諸事象を社会学的視点からとらるために、社会学の考え方、特に都市社会学の基本的な理論と今日の理論展開について学ぶ。 2. 到達目標 1. 社会学とは、どのような学問なのか理解する。 2. 都市社会学のこれまでの基礎的な理論と理論潮流および「空間論的転回」以降の社会学と地理学の理論状況等を理解する。							
カリキュラム上の位置付け 都市社会学、社会学一般の基礎となる授業で、特に他の授業の履修を前提にするものではありません。ただし、さまざまな理論を取りあげるので、抽象的で難しい内容も含まれます。							
授業の概要と進行予定及び進め方 授業予定（以下の各講での内容は、授業の進み具合などにより変更します）。 第1講 授業についての説明 第2～3講 社会学とはどのような学問か 第4講 社会学における「社会」 第5講 「地域」とは 第5～6講 地域社会、地域コミュニティの現状と問題 第6～9講 都市社会学の基礎と都市研究の理論潮流 （ウェーバー、ジンメル、シカゴ学派からミシェル・フーコーの都市論まで） 第10～15講 「空間論的転回」以降の社会学と地理学							
授業に関連するキーワード	社会学	地域	社会理論				
都市	空間論的転回						
成績評価の方法及び合格判定基準 授業に関連する内容についての小テスト（複数回の場合あり）とレポートで成績を評価します。 ・小テスト（40点）：授業内容について理解しているかの確認 ・レポート（60点）：授業の内容をふまえ、社会学の視点を理解し、自分の議論を展開できるかをみる課題を出します。 小テストおよびレポートの課題については授業内でのみ説明を行い、それ以外、掲示や、欠席した場合の個人的な問い合わせに対する説明などは行いません。授業を欠席する場合は、欠席届けを提出してください。 レポートは締め切り厳守で、締め切り日「時」をすぎたレポートは評価の対象外にします。またほぼ同一内容のレポートがあった場合、またネットや本の内容をそのまま写したと判明したレポートは、そのすべてのものをDにします。きちんとした引用の書き方をせずに、部分的であっても無断で著作、ネットの内容を引用したことがわかった場合もDにしますので注意してください。手書きのレポートは基本的に不可とします。レポートは英語でも可です。追試験・再試験は行いません。							
教科書・参考書等 教科書と参考文献（和書および英語の文献）は、授業の内容に関連するものを、そのつど各回の授業のなかで指示しますが、参考文献として、下記のようなものがあります。 加藤政洋・大城直樹編著、2006、『都市空間の地理学』ミネルヴァ書房。 若林幹夫、1995、『地図の想像力』講談社選書メチエ。 シヴェルブシュ、1982、『鉄道旅行の歴史』法政大学出版局。 ジンメル、『ジンメル・エッセー集』平凡社ライブラリー。 ウェーバー、『都市の類型学』創文社。 Giddens, Anthony, 2006, Sociology, 5th edition, Polity Press. ほか							

授業科目名	和文：地理と地誌Ⅰー地誌学入門ー 英文：Regional Geography I:Introduction to Regional Geography				時間割	金 3-4
科目コード	502-0141	必修・選択	選択	単位・時間数	2・	開設学期等 1期
受講対象学生	全学部1～3年					
授業の形式	講義・実習	備考				
履修する際に前提とする授業科目名						
内容的に密接に関係する授業科目名	自然地理学入門、人文地理学入門、地誌学概論					
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号				
篠原 秀一	教育文化・文化環境	教育文化 3-335・2663				
オフィスアワー	曜日及び時間：平日午後随時			場所：教育文化3号館335研究室		
授業の目的及び到達目標 1. 目的 1) 地図、とくに地形図、あるいは地理写真、地誌に親しむ。 2) 地誌および地誌学の基本を学ぶ。 2. 到達目標 1) 地誌の意味と役割を簡単ながら説明できる。 2) 様々な地図から地誌的基本情報を解説できる。 3) 様々な地理写真を簡単ながら説明できる。						
カリキュラム上の位置付け 地誌学・人文地理学・自然地理学の地理学全般にかかわる導入授業の1つでもあり、「地誌学概論」へと続くものである。						
授業の概要と進行予定及び進め方 様々な地図と地理写真を題材として、地誌学の基本的な知識、地域のとらえ方を習得する。配布プリントと板書を中心とし、地図・地理写真・地誌の現物も回覧して講義する。作業学習の時間も含む。12色鉛筆が必要となる。2万5千分の1地形図1枚(270円)の購入を求めることもある。 1. 多種多様な地図 1) 地図のある生活 2) 地図の定義と種類・分類 2. 地図の作成と活用 1) 近代的地図の整備と作成 2) 地形図の図式 3) 地図(地形図)の活用 3. 地理写真と写真地誌 1) 地理写真とは 2) 地理写真を読む 3) 写真地誌						
授業に関連するキーワード	地図	地形図	読図			
地理写真	地誌					
成績評価の方法及び可否判定基準 授業中の質疑応答と出席状況をふまえ、筆記試験(60%)、レポート(40%)により総合的に評価する。 原則として3回以上の欠席を認めない。 総合的に評価して100点満点で60点以上を合格とする。						
教科書・参考書等 教科書：「地形図の手引き(五訂版)」(日本地図センター) 参考書：「[続] やさしい風景学」(マルモ出版) 他の参考書は授業時に随時紹介する。						

授業科目名	和文：地理と地誌Ⅱ－自然地理学入門－ 英文：Regional Geography II: Introducing Physical Geography				時間割	火 3-4	
科目コード	502-0161	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1期
受講対象学生	全学部						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名	「水文学Ⅰ」「水文学Ⅱ」						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
林 武司	教育文化・文化環境	教育文化 3-333・2664					
オフィスアワー 曜日及び時間：火曜5・6時限			場所：教育文化 3-333				
授業の目的及び到達目標 1. 目的 私たちを取り巻く自然環境は、自然要因あるいは人間活動によって常に変動している。本授業では地球表層の様々な自然環境を概観し、それらの成り立ちや相互関係、人間活動との関わりについての基礎的な知識を習得することを目的とする。 2. 到達目標 自然環境に関する基礎的な知識を学ぶことで、様々な環境問題の本質的な原因について客観的に考察する視点の基礎を持てるようにしたい。							
カリキュラム上の位置付け 「水文学Ⅰ,Ⅱ」と関連							
授業の概要と進行予定及び進め方 自然地理学は、自然環境の成り立ちや変動プロセス、人間活動との関わりを科学的に理解するための、総合的な学問領域である。本講義では、私たちの活動領域である地球表層を地圏、水圏、気圏の3つの領域に分け、それぞれの特性と相互関係について概観する。また、それらが人間活動によってどのように変化しているか、という視点から環境問題についても取り上げる。 進行予定（内容は一部変更する可能性があります） 1. 序論 環境科学としての自然地理学の学問体系を理解する 自然地理学を構成する学問体系 2. 地圏の環境 私たちの生活する陸地を構成する地圏の特性について理解する 地球の大きさや構造、地球の活動、地形の成り立ちと輪廻、人間活動に伴う地形変化 3. 水圏の環境 地球の自然環境を特徴づけている水圏の特性について理解する 地球上の水の存在量と循環、水の物理的・化学的特性、地表の水、地下水、海洋 4. 気圏の環境 地球を薄く覆っている気圏の特性について理解する 気圏の階層構造と大気循環、気候変動－自然要因と人為影響、大気汚染と酸性雨 5. 地球環境問題 地球規模で生じている環境問題と人間活動の関わりについて理解する エネルギー問題、水問題、温暖化、砂漠化 6. まとめ							
授業に関連するキーワード	自然地理学	自然環境	人間活動				
地球環境問題							
成績評価の方法及び合否判定基準 期末試験、レポートにより総合的に評価する							
教科書・参考書等 授業中に適宜紹介する							

授業科目名	和文：秋田の自然と文化 I A－秋田の食－ 英文：Nature and Culture in Akita IA:Dietary Habits in Akita				時間割	金 7-8	
科目コード	502-0153	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1期
受講対象学生	全学1～3年						
授業の形式	講義・演習・学生参加型	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属		学内室番号・電話番号				
長沼誠子	教育文化学部		教育文化学部1-203・2530				
オフィスアワー 曜日及び時間：月曜日9：00～12：00 場所：教育文化学部1号館203室							
授業の目的及び到達目標 1. 目的 秋田大学に学ぶ学生として、秋田の食の特徴を知るとともに、地域における食嗜好・食文化の相違性とその要因について考える。 2. 到達目標 1) 食生活の構造、おいしさ評価と食嗜好形成のメカニズムを説明できる。 2) 食の地域性とその要因について、事例（秋田の食、出身地の食）をあげて説明できる。 3) 食に関する統計資料を分析し、その結果を発表できる。 4) 官能評価法の目的・方法を理解し、評価の実施・集計・解析を行い、その結果を発表できる。 5) 各地域の食文化に関する情報を収集してグループ討論を行い、その結果を発表し、クラス内で意見交換ができる。							
カリキュラム上の位置付け 目的主題別科目【地域社会論】の授業科目として、私たちの身近な食生活について「地域と食文化」の視点から考える。主に「学問の進展」を目的としており、学生の発表・討論を通して、「地域と食文化」研究の萌芽を探ることをねらいとする。							
授業の概要と進行予定及び進め方 1. ガイダンス：地域とは？ 食文化とは？ 2. 食生活の構造（食行動分析）何のために食べるのか？ 3. おいしさのメカニズム（官能評価・嗜好調査）おいしいと思う理由は？ 4. 食嗜好の形成要因（食歴調査）食べ物が嫌いになる理由・好きになる理由は？ 5. 米食の文化（官能評価）ご飯の好みに個人差や地域差はあるか？ 6. 米食の文化（資料分析）米食の国内比較・国際比較 7. 米食の文化（グループ討論）秋田の米食は？ ○○地域の米食は？ 8. 報告会：「地域と食文化を考える－米食文化を中心として」 9. 秋田の食文化（資料分析）食材・調理加工法に地域差はあるか？ 10. 秋田の食文化（資料分析）塩味・甘味の好みに地域差はあるか？ 11. 秋田の食文化（官能評価）秋田の食の特徴は？ 12. 行事と食（資料分析）行事食が継承される理由・継承されない理由は？ 13. 地域と食文化（グループ討論） 14. 報告会：「地域と食文化を考える」 15. 期末試験 * 授業の内容に応じて評価・調査・集計・解析などを個別あるいはグループ別を実施し、毎時、評価用紙・課題用紙などを提出する。 * 集計作業・結果の解析、情報の収集などを授業時間外の課題にする場合がある。 * 学生への質問、討論は随時行う。 * PC プロジェクターは随時活用する。							
授業に関連するキーワード	食生活	食文化	食嗜好				
地域	秋田	米食	行事食				
成績評価の方法及び合格判定基準 評価・課題用紙の内容および発表・討論参加状況 70 % 期末試験（資料等の持込有） 30 %							
教科書・参考書等 資料を配布する。 参考書：石川寛子『地域と食文化』放送大学教育振興会 近藤弘『日本人の味覚』中公新書 その他、授業時に紹介する。							

授業科目名	和文：秋田の自然と文化 III Aー地域史を歩くー 英文：Nature and Culture in Akita IIIA:Regional History in Edo Period				時間割	金 7-8
科目コード	502-0193	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等 1期前半
受講対象学生	全学部 1～3年					
授業の形式	講義・実習・学生参加型	備考				
履修する際に前提とする授業科目名						
内容的に密接に関係する授業科目名						
担当教員名	所属		学内室番号・電話番号			
渡辺英夫	教育文化学部		教文 3-336・2667			
オフィスアワー 曜日及び時間：月～金 16時以降			場所：研究室			
授業の目的及び到達目標 1. 目的 土地に刻まれた歴史を読み取る。 2. 到達目標 城下町久保田(秋田)でのフィールドワークに基づき、他の近世都市・城下町の成り立ちについても考察できるよう、その能力を養成する。						
カリキュラム上の位置付け 日本近世史を専門的に研究していくための導入ではない。日本の歴史に関心を持つ一般の学生を対象にして、いま目の前に現存している街の姿から、その都市の歴史を考察していく能力を養い、地域の歴史により一層の関心を深めて貰いたい。						
授業の概要と進行予定及び進め方 1. 近世都市を考えることの意味 2. 近世都市の構造 その1 戦国から平和へ 3. 近世都市の構造 その2 城下町と街道 4. 近世都市の構造 その3 城下町と水運 5. 近世都市の構造 その4 城下町と身分 6～7. フィールドワーク 8. レポート提出 討論						
授業に関連するキーワード	城下町	近世都市	地域の歴史			
歴史の視点	フィールドワーク					
成績評価の方法及び合否判定基準 フィールドワークへの出席が絶対の前提条件です。その上で、学習態度・意欲(10%)、フィールドワーク(40%)、レポート(25%)、出席状況(25%)の割合で判定します。						
教科書・参考書等 塩谷順耳他著『秋田県の歴史』山川出版社、2001年、本体価格1900円						

授業科目名	和文：秋田の自然と文化 III B 一地域史を歩く－ 英文：Nature and Culture in Akita IIIB:Regional History in Edo Period				時間割	金 7-8
科目コード	502-0194	必修・選択	選択	単位・時間数	1・	開設学期等 1期後半
受講対象学生						
授業の形式	講義・実習・学生参加型	備考				
履修する際に前提とする授業科目名						
内容的に密接に関係する授業科目名						
担当教員名	所属		学内室番号・電話番号			
渡辺英夫	教育文化学部		教文 336・2667			
オフィスアワー	曜日及び時間： 月～金 16時以降		場所： 研究室			
授業の目的及び到達目標 1. 目的 土地に刻まれた歴史を読み取る。 2. 到達目標 城下町久保田(秋田)でのフィールドワークに基づき、他の近世都市・城下町の成り立ちについても考察できるよう、その能力を養成する。						
カリキュラム上の位置付け 日本近世史を専門的に研究していくための導入ではない。日本の歴史に関心を持つ一般の学生を対象にして、いま目の前に現存している街の姿から、その都市の歴史を考察していく能力を養い、地域の歴史により一層の関心を深めて貰いたい。						
授業の概要と進行予定及び進め方 1. 近世都市を考えることの意味 2. 近世都市の構造 その1 戦国から平和へ 3. 近世都市の構造 その2 城下町と街道 4. 近世都市の構造 その3 城下町と水運 5. 近世都市の構造 その4 城下町と身分 6～7. フィールドワーク 8. レポート提出 討論						
授業に関連するキーワード	城下町	近世都市	地域の歴史			
歴史の視点	フィールドワーク					
成績評価の方法及び合否判定基準 フィールドワークへの出席が絶対の前提条件です。その上で、学習意欲・態度(10%)、フィールドワーク(40%)、レポート(25%)、出席状況(25%)の割合で判定します。						
教科書・参考書等 塩谷順耳他著『秋田県の歴史』山川出版社、2001年、本体価格1900円						

授業科目名	和文：秋田の自然と文化 IV A－秋田の自然・資源・社会・文化－ 英文：Nature and Culture in Akita IVA: Nature, Mineral Resources, Society and Culture in Akita				時間割	木 7-8	
科目コード	502-0233	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等	1期後半
受講対象学生	全学年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号		
水田 敏夫	地球資源	工資 G310・889-2380	石沢 真貴	政策科学	教文 3-322・889-2616		
石山 大三	環境資源センター	工資セ 218・889-2447	吉岡 尚文	法医学	医・884-6092		
井上 正鉄	人間環境	教文 4-412・889-2588	清水 徹男	精神科学	医・884-6119		
オフィスアワー	曜日及び時間：木曜, 16:00-17:00			場所：工資 G310・889-2380			
授業の目的及び到達目標							
1. 目的 秋田大学で学ぶ大学生として、秋田の自然社会、文化等の背景と環境を知り、秋田の特色を学び、爾後の専門教育との位置づけと係わり、地域と連携について考えることを目的とする。							
2. 到達目標 1) 限りある地下資源の基礎的知識を学習し、世界有数の秋田県の黒鉱鉱床資源を認識し、資源の生成機構を理解できる。 2) 世界自然遺産地域に指定された白神山地の生態系を理解し、人間との共存の道を探ることができる。 3) 秋田県民の生活の特徴を種々の統計資料から読み取ることができる。 4) 秋田県の自殺の実態を把握し、その真の動機や問題点を考えることができる。 5) 飲酒と文化、健康、法律との係わりについて学び、危険な飲酒習慣について認識を深めることができる。							
カリキュラム上の位置付け							
人間生活に深く関連する事柄の中で、秋田の資源や文化に密接に係わる問題を取り上げ、3学部の教官がそれぞれの専門分野を生かした講義を行う（本年度の担当責任者は水田 敏夫）。							
授業の概要と進行予定及び進め方							
第1回（水田）：限りある地下資源について、エネルギー資源・金属資源の賦存状況、そして金属の濃集による鉱床の生成を概説し、地下資源賦存の基礎的知識を学習する。							
第2回（井上）：秋田県内には十和田湖・八幡平国立公園をはじめとする多くの自然公園や世界自然遺産地域に指定された白神山地がある。これらはブナ自然林に広く覆われて多様な生物を育てている。秋田が誇る豊かな生態系を紹介して、人間との共存の道を探る。							
第3回（井上）：世界遺産地帯白神山地を紹介し、白神山地の保護・管理の在り方を探る。							
第4回（水田）：秋田県は日本有数の地下資源の宝庫として知られている。県周辺の地下資源の賦存状況を概説し、秋田県北東部の北麓地域に分布する世界有数の黒鉱鉱床の地質と火山活動、鉱床探査技術、そして世界への貢献について紹介し、資源問題を考える。							
第5回（石山）：地学や地質の自然物を対象とする学習は、実際に野外における観察や実物に触れることが大切である。資源に関する講義の理解度をより高めるために、本学が世界に誇る鉱業博物館の展示物（鉱物、鉱石等）を見学・観察する（学生ボランティアも参加）。							
第6回（石沢）：秋田の生活、秋田県民の生活の特徴を種々の統計資料から明らかにする。							
第7回（吉岡）：秋田県の自殺者数は毎年400人を越えており、特に平成11年度は500人に達した。自殺率にすると30ポイント以上であり、全国1位が続いている。高齢者の自殺が多い点特徴で、女性では半数以上が高齢者で占められている。自殺の動機、背景には病苦が一番多いが、真の動機は別の場所に潜んでいるようである。秋田県の実態を具体的に提示し、皆でこの問題を考えてみたい。							
第8回（清水）：「飲酒による光と影」秋田県は日本有数の米どころ酒どころであると共に、県民1人当たりのアルコール消費量においても全国のトップクラスにある。この講義では飲酒と文化、健康、法律との係わりについて解説すると共に、危険な飲酒習慣について学生諸君の認識を深めることを目的とする。							
メッセージ：プリント、PC Projector、OHPを用いながら講義を進める。自然物を対象とする地学や生物学は、講義に加え、野外に出かけたり、本学の鉱業博物館等で観察することが望ましい。							
授業に関連するキーワード	秋田の地質とエネルギー資源	黒鉱鉱床と鉱業博物館	世界遺産と白神山地				
秋田の自然	秋田の生活	自殺	酒の功罪				
成績評価の方法及び合否判定基準							
出席点及び授業内容に関するレポート（50%）、簡単な小テスト（50%）で評価する。80点以上をA、79～70点をB、69～60点をCとし、それ以下を不合格とする。							
教科書・参考書等							
特に使用しない。							

授業科目名	和文：秋田の自然と文化Ⅴー地域の生活史ー 英文：Nature and Culture in Akita V:Life Culture History of Regional Society				時間割	月 3-4
科目コード	502-0240	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等 1期
受講対象学生	全学部1～4年					
授業の形式	講義	備考				
履修する際に前提とする授業科目名	(特になし)					
内容的に密接に関係する授業科目名	(特になし)					
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号				
渡部 育子	教育文化学部	教文 3-325・2615				
オフィスアワー 曜日及び時間：木7・8		場所：教文 3-325 (要アポイントメント)				
授業の目的及び到達目標 1. 目的 地域を舞台に展開した人々の生活の歴史について、講義や文献・資料調査を通じて考察し、理解する。 2. 到達目標 1) 古代国家の秋田地域支配の特質について説明できる。 2) 東アジア世界のなかでの秋田の位置づけについて説明できる。 3) 古代秋田の人々の生活の実態について、秋田の自然とのかかわりにおいて説明できる。 4) 秋田地域に関して、自分で興味を持てるテーマを発見する。						
カリキュラム上の位置付け 本講義は目的・主題別科目のうち「地域社会論」分野を構成する。						
授業の概要と進行予定及び進め方 【概要】 古代国家（律令国家）による秋田支配と人々の生活、大陸から秋田にやって来た人々への処遇などを中心に、古代秋田をめぐる国家支配・交流・生活の諸相について考察する。 【進行予定及び進め方】 1：ガイダンス 2～4：律令国家の秋田支配（出羽国・秋田城） 5～7：大陸から秋田にやって来た人々（渤海） 8：小レポートの書き方・調べ方 9～12：秋田地域の人々の生活・文化に関する調査・資料収集 13：秋田の古代と現代 14：期末レポートの書き方 15：まとめ・レポート提出						
授業に関連するキーワード	律令国家	出羽国	秋田城			
渤海	蝦夷					
成績評価の方法及び合否判定基準 1) 小レポート 40点・・・自分で興味をもって調べた事に関するレポート・・・到達目標(3)(4) 2) 期末レポート 60点・・・授業内容に関するレポート・・・到達目標(1)(2)						
教科書・参考書等 授業中に紹介する。						

授業科目名	和文：秋田大学論 I－秋田大学の歴史とこれから－ 英文：Lecture on Akita University I:Study on Development of Our University				時間割	水 1-2
科目コード	502-0212	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等 1期前半
受講対象学生	全学部 1～4年					
授業の形式	講義	備考				
履修する際に前提とする授業科目名	特になし					
内容的に密接に関係する授業科目名	秋田大学論 II－がんばれ！秋大生－ (502-0223)					
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号				
教育推進主管（責）		一般教育 1号館 2階主管室				
オフィスアワー 曜日及び時間：			場所：			
授業の目的及び到達目標 1. 目的 秋田大学の歴史・現状・将来展望について学ぶ。 2. 到達目標 ・秋田大学の歴史・沿革について、概略を説明できる。 ・秋田大学で学ぶことに対する意欲を高める。						
カリキュラム上の位置付け 教養基礎教育の目標 1. 「高校教育から大学教育への円滑な導入・転換を図り、大学生としての学習方法の基本に習熟させる」及び、目標 5. 「知性・情操・身体の各面における教育を通じて豊かな人間形成を目指す」に密接に関連する科目である。						
授業の概要と進行予定及び進め方 「秋田大学論 I」では、学長をはじめ、本学の各部門の指導的立場に立つ教職員が、秋田大学の歴史、現状、将来展望について講義します。講義を通じて秋田大学の諸側面について理解するとともに、秋田大学でどのような学生生活を過ごすか、何を学ぶかについて、深く考察してほしいと思います。 講義担当予定者は次の通りです。担当順は、決定次第、掲示によりお知らせします。 ・学長 ・理事（教育担当、学術研究担当、社会貢献・国際交流担当、総務担当） ・教育文化学部長 ・医学部長 ・工学資源学部長						
授業に関連するキーワード	秋田大学	大学生	教養教育			
学士課程教育	歴史	将来展望				
成績評価の方法及び合否判定基準 毎回授業終了時に提出する小レポートによって評価します。各レポートに対して評価を行い、全体の得点が 80 %以上：A、70 %以上 80 %未満：B、60 %以上 70 %未満：C、60 %未満：D とします。ただし、小レポートの未提出が 3 回に達した時点で、履修放棄とみなします。						
教科書・参考書等 教科書は特に使用しません。						

授業科目名	和文：地球の環境と資源 I A—地球環境と化学元素— 英文：Global Environment and Resources IA:Chemical elements and global environment				時間割	金 5-6
科目コード	503-0018	必修・選択	選択必修	単位・時間数	1・15	開設学期等 1期前半
受講対象学生	全学部全学年					
授業の形式	講義	備考				
履修する際に前提とする授業科目名	特にありません。高校で理科総合 A を履修していれば、化学 I,II を履修していなくとも、学習によって理解できる内容です。					
内容的に密接に関係する授業科目名	「地球の環境と資源 IIB-地球環境と放射線」「地球の環境と資源 III-環境モニタリングと大気環境」					
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号				
岩田吉弘	教育文化学部自然環境講座	教文 3-218・2622				
オフィスアワー 曜日及び時間：木曜日、13時から14時30分まで 場所：教文 3-218						
授業の目的及び到達目標 1. 目的 地球環境における化学元素の分布と生体内での機能についての理解 2. 到達目標 1, 元素の生成と地球環境での分布について理解し説明できる。 2, 生体内での化学元素の存在量と機能について理解し説明できる。						
カリキュラム上の位置付け 環境、化学、生命科学を専門とする学生には、地球化学、無機化学、生物無機化学の入門的な内容。それらを専門としない学生には、地球環境と化学の関わりについて教養を高める内容。						
授業の概要と進行予定及び進め方 1, 化学元素の定義と単位、記号 2, 地球の構造 3, 宇宙における元素の生成と存在量 4, 地圏、大気圏での元素の存在量 5, 水圏、特に海洋における元素の存在量と移動 6, 生体における元素存在量 7, 生体における化学元素の機能 8, まとめと最終の小試験 *遅刻者は最前列への着席していただきます*						
授業に関連するキーワード	地球	大気	海洋			
生体	化学元素	必須元素	有毒元素			
成績評価の方法及び可否判定基準 授業3回目以降、毎回10分程度の小試験を行います。 可否：小試験の成績が60%以上を合格とします。 評価：A 100-80%, B 79-70%, C 69-60%, D 59-0%, 履修放棄：出席日数が2/3に満たない者 受講者が確定した段階でプリントとバーコード付き出席票をまとめて配布します。紛失しても原則として再配布しません。 成績不振者、無断欠席者に対するレポート提出や再試験等による救済措置は一切行いません。						
教科書・参考書等 参考書・教科書は用いません。プリント、OHPを利用します。						

授業科目名	和文：地球の環境と資源Ⅱ－地球環境と放射線－ 英文：Global Environment and Resources II:Global environment and ionizing radiation				時間割	金 5-6	
科目コード	503-0021	必修・選択	選択必修	単位・時間数	1・15	開設学期等	1期後半
受講対象学生	全学部全学年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名	特にありません。高校で理科総合 A を履修していれば、化学 I,II を履修していなくても、学習によって理解できる内容です。						
内容的に密接に関係する授業科目名	「地球の環境と資源 IAB-地球環境と化学元素」「地球の環境と資源 III-環境モニタリングと大気環境」						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
岩田吉弘	教育文化学部自然環境講座	教文 3-218・2622					
オフィスアワー 曜日及び時間：木曜日、13時から14時30分まで 場所：教文 3-218							
授業の目的及び到達目標 1. 目的 放射線と放射能を正しく理解し、環境や人間生活との関わりについて説明できること。 2. 到達目標 地球環境と放射線に関する以下の項目について理解し、説明できること。 放射線と放射能、環境放射能、放射線の人体への影響、放射線の産業での利用、放射線の医療での利用、原子力発電、核燃料サイクルと放射性廃棄物							
カリキュラム上の位置付け 化学と資源を専門とする場合には放射化学、エネルギー工学を専門とする場合には原子力工学、生命科学を専門とする場合には放射線の基礎となる。それらを専門としない学生には、放射線と環境、原子力に関する教養を高める内容。							
授業の概要と進行予定及び進め方 1、放射線と放射能 2、環境放射線 3、放射線の人体への影響 4、放射線の産業での利用 5、放射線の医療での利用 6、原子力発電 7、核燃料サイクルと放射性廃棄物 8、まとめと最終の小試験 *遅刻者は最前列への着席していただきます*							
授業に関連するキーワード	放射線	放射能	環境放射線				
放射線影響	原子力発電	核燃料サイクル	放射性廃棄物				
成績評価の方法及び合否判定基準 授業2回目以降、毎回10分程度のマークシート方式の小試験を行います。 合否：小試験の成績が60%以上を合格とします。 評価：A 100－80%、B 79－70%、C 69－60%、D 59－0%、履修放棄：出席日数が2/3に満たない者 成績不振者、無断欠席者に対するレポート提出や再試験等による救済措置は一切行いません。							
教科書・参考書等 参考書・教科書は用いません。プリント、OHPを利用します。							